

第一礼拝次第



メッセージ: 郭永東牧師

ライブ配信: 伊禮信義先生

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		会衆	
プレイズ	「主イエスを喜ぶことは」 「主はあなたを守る方」	会衆	
聖書朗読	申命記1:19~33 (旧約聖書 p.280)	司会	
祈賛	85	司会	会衆
メッセージ	「偵察隊の報告」	牧師	
祈賛	新生437	牧師	会衆
献金		会衆	
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝	祈	牧師	

<巻頭言>

牧師 郭永東

神様は人間の目には見えません。それなら、見えない神様が存在することをどうやって知ることができるのでしょうか？ どうやって見もしないで信じてることができるのでしょうか？

まず、『信じる』という表現は、見えないという事実を前提としています。公園にある一本の木を見たとしましよう。「公園に木がある」と言うのであって、「私は公園に木があることを信じている」とは言わないでしょう。目で見えるなら「ある」と言いますし、「信じる」とは表現しないでしょう。言い換えれば、見えないからこそ『信じる』という表現を使うのです。

次に、見えないものを信じることは愚かなことではありません。人生で大切なものは、ほとんどが愛や友情、夢や理想、名誉といった目に見えないものです。言い換えれば、私たちが時間と努力、情熱を注ぐ対象は、ほとんどが見えないものです。見えないものを信じることは愚かだと言われることが多いですが、実際には見えないものが存在するという信念に基づいて私たちは生きています。

実際、私たちが感覚で得る知識は非常に限られています。たとえば、光は暗すぎても見ることはできませんが、明るすぎても見ることはできません。音も小さすぎると聞こえませんが、同時に大きすぎても聞こえません。光の中には可視光線があり、可視光線は人間の目で見ることができる光線のことを指します。逆に、紫外線のように人間の目で見ることができない光線もあります。たとえ目で見ることができなくても、紫外線は確かに存在しています。今この瞬間も、地球は自転しながら太陽の周りを公転しており、その際にはものすごい轟音を立てて動いていると言われていています。私たちには聞こえませんが、確かに存在する音があります。言い換えれば、私たちの感覚で経験できないからといって、それが存在しないわけではありません。今の時代に必要なのは、見えないものを信じる信仰です。



第二礼拝次第 (英語礼拝)

メッセージ: 渡真利彦文牧師

奏楽: 郭永東牧師

プレイズ: 「This is the day この日は主が造られた」
「His name is wonderful すばらしい主」
「shout to the Lord 叫べ全地よ」
「Emmanuel インマヌエル」
「Amazing grace 驚くばかりの」



ファミリー礼拝

聖書: 出エジプト記 12:21~28

メッセージ: 「過越」